



青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向って
昂って行く姿を示している。



Weekly Report



地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**

第252回例会報告 (12/27)

(1995年～1996年度第25回例会)

司会 SAA委員会委員 奥田 文夫

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎ロータリーソング ソングリーダー 吉沢 洋景
「四つのテスト」

◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫
山本 英司様(稲城RC・次年度分区代理)

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

本日私の事務所で定例理事会を行いますので、例会後役員理事の方は全員ご出席下さい。

事務所移転の件で早く委員を選んで契約をしてほしいと云う要望が来ております。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

先週のクリスマス例会、ご協力ありがとうございました。

- 1) 地区ロータリー財団GSE委員会開催のご案内が来ています。1月9日(火) ミリデアンホテルパシフィックで赤尾地区GSE委員が出席の予定です。

- 2) 地区ロータリー財団GSE委員合同会議開催のご案内が来ています。1月29日(月)場所は同じミリデアンホテルパシフィックで赤尾地区GSE委員と萩生田会長が出席の予定です。

- 3) クラブ米山奨学委員長並びにカウンセラー合同会議開催のご案内が来ています。1月27日(土)アルギア市ケ谷で伊藤英也米山副委員長と吉沢カウンセラーが出席の予定です。

◎次年度会務報告 会長エレクト 遠藤 二郎

先週の総会に於て役員理事の承認を頂きました。被選理事会として半年準備の為がんばります。会則により臨時総会より1週間以内に会場監督を選任すると云うことが有ります。5時30分より『サファイア』にて第1被選理事会を開催致しました。

- 議案
- 1. 会場監督として横倉譲理事を決定。
 - 2. 次年度委員会組織案を作成することに付いて会長エレクト及び被選理事に一任する事で決定。
 - 3. 第2回被選理事会を初例会前の5時～5時50分の間にクラブ事務局にて開催する事に決定。
 - 4. 例会場及び事務局移転準備委員会設立に付いて被選理事会の全員が委員として参加。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長: 萩生田茂夫 副委員長: 菅尾善太郎 山崎 光一
幹事: 橋口 洋三 委員: 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長: 小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿
例会場 多摩そごう7F バンケットルーム

事務局: 東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491
例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 奥木 博勝

山本 英司様：先日のホールインワン記念品ありがとうございました。お礼が遅れて申し訳ありません。又本日お世話になります。

萩生田茂夫：宮本さん、この間のクリスマス会に出席させて頂き大変ごちそう様になりました。

橋口 洋三：12月23日宮本宅での馬手を囲んでのクリスマスパーティーで宮本さんに大変お世話になったので。

橋口 洋三：本日の例会が終了して半分、御協力有難うございました。後半分御協力お願いします。

伊藤 稔：山本様ようこそ。

加藤喜三郎：お誕生祝をいただいたので。

赤尾 恭雄：本年はお世話になりました。来年もよろしくお願いします。

伊藤 英也：今年もお世話になりました。

横倉 舜三：本年は皆さんに大変お世話になりました。家内に誕生祝ありがとうございます。

新海源四郎：今年最終例会ですね。

海野 栄一：本年の最終例会なので。

大熊 将夫：坂田様今日はありがとうございました。メンバーの皆さん、そして我等のアイドルの西川様良い年を。

北村 幸彦：寒くなりましたね。皆さんお元気ですか。

山崎 光一：入会初年度、大変お世話になり有難うございました。来年も宜しくお願いします。

津守 弘範：今年最後の例会と今年最後の除夜の鐘ぜひ皆さまおいで下さい。

宮本 誠：来年もよろしく。よいお年を。

伊東 巖：奥木さん、クリスマス例会チャリティご苦労様でした。

小林 和夫：母の告別式でお世話になりました。「シクシク」

本日合計 金42,000円 本年度累計 金676,278円

◎ クリスマス懇親会報告 親睦活動委員会委員長 伊東 巖

◇クリスマス懇親会の収支報告書1枚、別紙の通りでございます。

◇今年の年男

佐伯 和廣、小林 和夫、津守 弘範、白井 博

◎ 出席報告 出席委員会委員 大松 誠二

会員総数	54名
出席者数	47名
本日出席率	87.04%
12/13出席率	80.00%

■ メークアップ 3名
関岡 俊二 (12/19 西南)
小林 和夫 (12/26 多摩)
伊神 稔 (12/22 青少年交換委員会)

■ 欠席届出者 5名
橋本 幸夫 風間 茂穂 森田 舞子
田畑 博 内田 茂男

■ 欠席者 2名
中山 恒武 戸田 昭寿

◎ お客様ご挨拶 稲城 R C 山本 英司様

皆さん今晚は、久し振りにグリーンクラブにやってきました。今日メイクアップと云うよりも、去る4月5日グリーンクラブのご招待で花見ゴルフ大会で東京国際OUT. No2ホールでホールインワンを致しました。その時の記念にりっぱなトロフィーを頂き、そのお礼を申し上げに参りました。又来年度は分区代理を引き受ける事になりました。グリーンクラブの次年度の会長、幹事さん、どうかよろしくお願いします。

◎ 挨拶 小林 和夫

先日の母の葬儀の折には年末のお忙しい中にもかかわらず、ご会葬とご厚情を頂きまして誠に有難うございました。私はクラブの皆様方の暖かいお気持ちを何時までも忘れる事なく、これからも皆様と一緒にクラブの中で奉仕させて頂きたいと思っております。

◎ クラブForum 情報委員会委員長 宮本 誠

情報委員会はクラブForumを前期と後期に1回ずつ開催する事になっております。今日の議題は5年経過した今、出席率等も考えの中に入れて上で当クラブの例会の開催時間と云うものを再検討しても良いのではと云う声が多い様に思えます。例会の開催時間と云うものとロータリーの考え方に付いてクラブ奉仕委員長の足立さんと歴代会長の田中さん、赤尾さん、横倉さん、私、現会長の萩生田さんにお話をし、委員との意見交換をしました。

(今週の担当：平野 行廣)

【卓 話】

「環境と健康」

駒沢女子（短期）大学教授 遠藤 立一



まず一番最初の健康ですが、健康というのは病気でないという事にとられがちです。ところがWHOとか日本の厚生省等が定めている健康の定義というのは、病気でないだけでは足りないのです。要するに、何かをしようという意欲に充ちた状態、もしくは何かをしている状態。その「何か」というのが非常に問題で、お金を儲けている状態というのは健康とはいえないのです。これはお金にならない事、人間でいいますと精神文化的行動といえますけれど、芸術等です。例えば絵を描く、文章を書く、文学を読む、短歌をつくる、詩を読む、それからスポーツをする、これはプロスポーツ選手の方は別ですが、アマチュアのスポーツというのはお金を頂いてやるのではなく、お金を払ってやるわけです。こういう事は何の得もないわけです。

人間が他の動物と違うところは、他の動物は一つの必然的な欲求、生存の為という欲求に基づいて行動を起こすところです。例えば、敵が来るから逃げる、病気だから薬になるクサを食べに行く、おしっこをしたいから表へ行ってする、女性がいれば子供を作る為にセックスをする。人間はセックスをする場合に目的をつくらないわけです。子供を作ろうと思って作っているわけではないのですね。むしろ作ろうと思わないで、できちゃったという話が多いわけです。こういうのが芸術と呼べるかというところちょっとそこはむずかしいのですが、一般的に動物は自分の具合の悪い事から逃げたり、排泄を満たしたり、食欲を満たしたりという事をする。その状態が健康、それが満足されたら動物は眠っているのだと、スイスの有名な学者が言っているのです。

人間はどこが違うかという、先程から申し上げているとおり、精神文化的行動をする事です。スポーツをしたり、芸術をやったり、そこが他の動物とは違います。

例えば腕が一本なくても足が一本なくても、そういうものをやろうという意欲に満ちた状態、もしくはそれが行動に出ている状態が、まさに健康なのです。ですから人間というのは、精神と体を兼ね備えていて、その精神活動を最もやらなければいけない、やる、やろうという気持ちが健康なのだ、定義をさせて頂きたい。これは私が言っているのではなく、世界中の賢人がこういう風に決めたという事です。ですから、体の調子はいいんだけど酒を飲んでいるというのは、これは健康ではないわけです。食欲とか性欲とかいうのは欲望ですから、こういうのは精神文化的な行動には入らないわけです。皆さんも是非とスポーツをやるとか、芸術を語るとか、そういう方向にいていただきたいと思います。

その次に、環境という言葉がいつ頃から出て来ているかといいますと、ヒポクラテス、まあこれは先生方もよくご存知だろうと思いますが、この時、既に空気、水、それから風というような形で、環境という意識はかなりあったのです。あそこは空気が悪いから、もしくは風が強いから、木があるから、あそこへ行くと病気になるよという話が、結構ありまして、これが現在でいう地方病、まあエボラ熱とかいうような地方病です。そういう事で病気との関係、直接的な関係において、環境が考えられる。ところが、段々人間が増え始めて、16世紀位から序々に、いわゆるマスプロダクションというのが始まったわけですが、大量生産をする為に動力源として化石燃料を使い始めたのです。この化石燃料を使い始めたというのが大気汚染のもとになっているのです。また他方からいいますと、紀元前に砂漠に非常に高度な文明が多数発達しました。その一つにメソポタミアがあるのですが、こういうところの砂漠は非常に大きな森でおおわれており、当時の国家というのは城塞都市といまして、自分達の住んでいるまわりをレンガで囲って、敵とか野獣の攻撃を防いでその中で生活するというのが都市の形態だったわけです。そのレンガを焼く為に、大量の木を切った事が、土地の保水性をなくして、砂漠化を起こす、イコール、自分達の飲み水もなくなってしまう為、その都市を捨てて他へ移動しなければならないのです。そういう事を人類は繰り返して来たのです。現在地球上の人間の数は総人口68億人いると言われておりますが、その中で約2億近くが充分な食べ物が得られないという現状だそうです。国連の推計ですと21世紀には総人口が約100億になるそうです。そうすると単純計算をしても、68億のうち2億なのですから、あと22億増えると、全部で24億の人が食糧が足りなくなるという状況が目と鼻の先に迫っているわけです。これらを解消する為にはどうしたらよいかという問題も、環境問題の一つとして、大

きく我々の前にクローズアップされて来ています。耕地面積を増やすというのは算術的な足し算計算です。人口の増えるのは掛け算計算、ですからとても人口の増えるのに食糧生産が追いつけないというのは自明の理であります。それを何とか解消しようとしても、我々が二酸化炭素、炭酸ガスを排出している限り、現状で排出している限りでは、耕地面積はむしろ縮小に向かっていく。先日、国連より西暦2000年には海面が5センチ上がり、2050年には50センチ上がるであろうと発表されました。そうしますと現在の耕地面積の30%から40%が、海面下に潜ってしまうという事で、生産量は半分になり、消費量は非常に増加するわけですから、我々も生きてはいけません。食物がなくなるという事は、もう10年か15年先に迫っているのです。

そんな事が何故起きているかということ、先程も申し上げたとおり、森の木を切りすぎた為の砂漠化であるとか、堆肥を与えないで土地に化学肥料をまいた結果、土壌内の残留構造がこわれ、植物が生えなくなってしまった。これはアメリカへ行かれた方は飛行機からご覧になってよくわかると思うのですが、カリフォルニアの豊かな穀倉地帯が、空から見るとボツンボツンと大きな穴があいたように砂漠化が起きています。これも地下水の汲み上げすぎによって、枯渇して来た。地下水というのはミネラルを含んでおりますから、その水を畑に使いますと、畑の上に塩分がせき出してしまい、植物が生えない状態になってくるわけです。こういう事が世界中で起きています。

環境問題というのは、一つは哲学ではないかと思いません。要するにお金をたくさん儲けたり、ものをたくさん身の回りに集めるという事を、自分だけでやっていたのでは駄目なのです。世界のバランスの上になんてやらないと、儲けたお金を山ほど積んでも、使えない時代が目と鼻の先に来ています。我々の先祖は過去に、地球に人間が住めないような条件をどんどん作って来てしまったわけです。「自然を征服する事によって人類は発展して来た」という学者がいます。しかし自然を征服してしまった結果、どうい事が起きているかということ、アメリカでもアフリカでもどんどん砂漠化が進んで、人の住めるところはどんどん減少しています。そういう現実を見ると、自然を征服するという事がいかにナンセンスか、また、エボラ出血熱とかエイズを見てもわかるとおり、本来人間が入らないところに無理に開発して入っていった為に、人間の病気ではないものが人間の病気になって世界中に広がり、人類の死命を制するという現状に至っているのです。やはり、人間は自然に対する恐れをもう一步下げて見て、地球に住まわせてもらっているのだ、人間の為だけの地球ではないのだという事をよく考えていかなくては行けないでしょう。

恐らく「環境と健康」という話に皆さんは、どんな水を飲んだら健康でいられるか、どんな空気の状態がいいのだろうか、空気の悪いところにいたらどんな病気になるのだろうか、それを防ぐにはどうしたらいいのだろうかという事を今日の話に期待されていらっしゃるのではないかなと思います。ところが30分ではそういう話は極めて専門的になりますので、先ず単語を憶えていただくかなってなりません。—— 略 ——

例として、岩手県のある海岸場、大船渡に近い所ですが、海の中で貝や魚がとれなくなったのです。海にも砂漠化現象というのがございまして、富栄養化、要するに皆が汚いものを川に流したり、空気が汚れるとその中の有害な成分が地面に落ちて、それが雨等で下水に流れ込み、川に流れ込み、やがて海をも汚していくのです。そういう事が起きて、特に富栄養化というのは、今の下水の処理法では完全にとれないチッソとリンという物質が海の中の藻の栄養になるわけです。そうすると特殊な赤潮とか青潮の原因になり、これは海中の酸素を強烈に消費して海の中を無酸素状態にしてしまうのです。

もう一つは、その藻の出す毒物が魚や貝を殺してしまう。その為に漁師さんが非常に困るわけです。そこで漁師さん達は、この港をもう一度豊かな海産物の宝庫にしようと立ち上がったわけです。まず何をやったかといいますと、川の源流から木を植えたのです。木を植えるという事は雨のたびに水が流れ出してしまうのではなく、地面の中に水がたっぷりたまるわけです。これは非常によい事がたくさんあります。まず、気温が急激に変化しないから気候が穏やかになります。根に緑の貯水池といわれる位水がたまり、川がコンスタントに流れ出します。そうすると家庭排水が多少流れ込んでも薄められて、海にダメージを与えにくくなるのです。現在では日本のフランス料理の専門家がそこにカキを買いに行くくらい、良質のカキがとれるようになって来ました。

この様にやろうという意志があって、その根源がどこにあるのかという事を理解できれば、人間というものは素晴らしい生き物だと思うのです。

やはり自然と人間が共存していけるような環境を自分達で作りに出していく事が、我々の子孫が安全に生きていく為のものなのだという事を、気持ちの上で納得しなくては行けないのです。